

多文化 社会学部

School of Global Humanities and Social Sciences

(設置計画書提出中)

》身につける4つの能力

必要な力	身につけるべき能力	提供されるカリキュラム
1 ことばの力	高度の外国語能力とコミュニケーション力	●英語モジュール ●中国語モジュール
2 調べる力	フィールドにおけるリサーチスキル	●フィールドワーク・モジュール
3 知識・考える力	多文化状況の意義の理解	●学部モジュール ●共通基礎モジュール ●専門モジュール
4 行動力	リーダーシップ・パートナーシップと問題解決力	●留学 ●フィールドワーク ●インターンシップ

平成26年4月新設予定

待望の人文社会系学部が、来年春にスタートします。コンセプトは「ローカルからグローバルを目指す」。いま、社会が求めているのは、グローバルな視野をもつ行動力のある人間です。多文化社会学部は、400年以上にわたる海外交流の歴史をもつ長崎の地で、そのような人材の育成を目指します。



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

多文化社会学部公式ウェブサイト

<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp>

Higher Standard for all Students

グローバル人材育成 長崎大学の使命



文、佐久間正
Sakuma Tadashi

一九四九年生まれ。長崎大学理事(教育学担当)、副学長、水産・環境科学総合研究科教授、博士(文学)、専門分野は日本思想史。著書に「徳川日本の思想形成と儒教」(ベリカン社)などがある。

現在、グローバル人材の育成が国家的な課題となっております。グローバル人材とは、単に英語が話せる人のことではありません。世界の広がり多様性を身をもって理解し、それに基づいて行動できる人こそがグローバル人材であり、その存在なくして、日本がこれからの世界を生き抜くことができないという認識がそこにはあります。

このような課題に対する長崎大学の答えの一つが、新学部「多文化社会学部」の創設です。

長崎大学はこれまで熱帯感染症の領域で世界をリードし、放射線医学の面では大規模な国際協力を実施し、さらに昨年には核兵器廃絶研究センターを開設して、世界の平和と安全に貢献すべく努力を重ねてきました。また、グローバル人材育成と

担うべき使命を十全に果たすことが可能となります。

多文化社会学部は、たとえば国際公務員、国際NGOや社会開発支援の専門家、あるいは国際交流の分野のコーディネーターなど、多文化状況に直面する現場で活躍できる人材を輩出することを想定しています。

これはまさに、長崎大学が目指す「行動力があり、危機に強く、現場に強い長崎大学」という大学像に合致します。

このような人文社会系のグローバル人材の育成のために、多文化社会学部はこれまでにない斬新なカリキュラムと教育プログラムを導入し、この取り組みをもって大学全体の改革を先導することを企図しています。

四つの能力

多文化社会学部の卒業生が身につけるべき能力として、私たちは「ことばの力」、「調べる力」、「知識と考える力」、「行動力」の四つを考えています。

これらの四つの能力を四年間で十分に養っていくために、カリキュラムは明確なテーマに沿って編成された科目群、すなわちモジュールの組み合わせによって構成されます。

一方で、医歯薬学総合研究科では熱帯病・新興感染症制御に関する専門家を、経済学部では経済学、経営学、会計学を基盤としたグローバル・ビジネス人材の育成に取り組んでいます。しかしながら、私たちはそれだけで満足することはできません。異文化交流と多文化共生の歴史をもつ長崎の地にあつて、長崎大学は人文社会系の幅広い知識をもつグローバル人材を育てる基盤を持つべきだからです。

長崎大学から果立ってほしいのは、「多文化の共生と協働が求められる現代世界において、存在感をもって政治・経済・文化・社会活動分野等で国際的に活躍できる人文社会系グローバル人材」です。こうした人材を輩出することによって、多文化都市長崎の国立総合大学が

「ことばの力」とは、「高度の外国語運用能力とコミュニケーション力」のことです。これを実現するために英語モジュールおよび中国語モジュールを用意しています。とりわけ英語については、一年次の前期に集中的な学習時間を確保しています。

「調べる力」とは、自ら問いを立て、フィールドでの調査を通して、答えを導き出す力のことです。具体的には、問題発見調査の企画、データの収集と分析を行うためのスキルを身につけていきます。

「知識と考える力」は、「社会・文化・言語的多様性の意義を理解する力」です。一年次の学部モジュール六科目を皮切りに、共通基礎モジュール一八科目、専門モジュールおよそ四〇科目を設定し、多文化社会に関する知識と思考力を深めていきます。

「行動力」は、リーダーシップやパートナーシップ、あるいは実行力と言い換えることができます。これらは、教室での勉強だけでなく身につけることはできません。全学生必須の短期留学や中期・長期の留学、海外でのフィールドワークやインターンシップを通して、学生たちは多文化状況の中で行動する力を身につけていきます。

Information

オープンキャンパス

7月20日(土)
文教キャンパス

詳しくは長崎大学オープンキャンパス情報25ページをご覧ください。

募集人員

平成26年度入試

	オランダ特別	グローバル世界社会動態共生文化	合計
前期日程	10	75	85
後期日程	-	15	15
AO入試	-	-	-
外国人留学生	若干名	若干名	若干名
合計	10	90	100

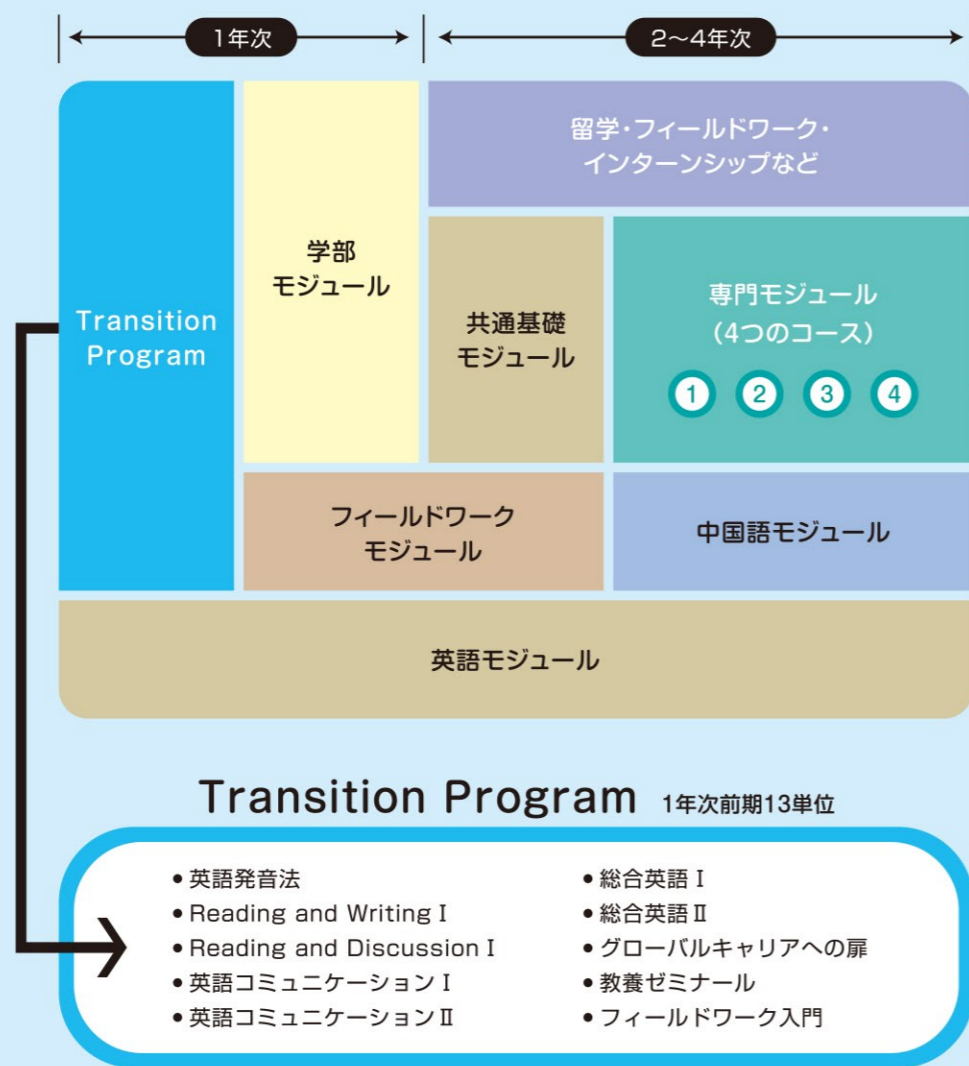
公式ウェブサイト

<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp>

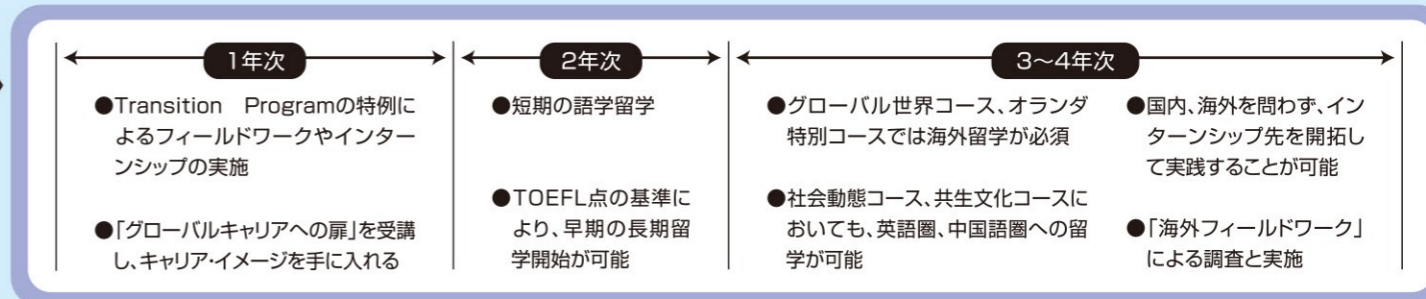
長崎大学 多文化社会学部 検索

長崎大学新学部創設準備室
TEL.095-819-2030
FAX.095-819-2235
(E-mail)hss_info@ml.nagasaki-u.ac.jp

8つの人文社会系カリキュラム



留学・フィールドワーク・インターンシップ



3つの専門コースとオランダ特別コース

グローバル世界コース

- グローバル化の進む現代社会で即戦力として活躍しうる人材を育成
- 法学、政治、経済学を中心とした、国際社会の「仕組み」の理解
- すべての講義科目を英語で開講
- 中長期の海外留学(主として英語圏)が必須

国際機構論 軍縮と平和 国際政治学 国際人権論 等

社会動態コース

- 国際的なコミュニケーション力と実践力を身に付けた人材を育成
- 社会学、文化人類学、歴史学を中心として、多文化社会の変化と動態を理解する
- 教員全員がフィールドワーカーであり、現地での実践経験をもつ
- アジア、アフリカ、ヨーロッパを対象とした知識と、フィールドワークを通じた実践指導を実現

トランスナショナルシティ論 現代アフリカ社会論 グローバル文化交流史 等

共生文化コース

- アジア諸国等との文化交流のシーンにおいて活躍できる人材を育成
- 思想、文化表象、メディア、言語等の面から、多文化共生社会の基礎となる言語や文化の重要性を学ぶ
- 英語教員および日本語教師資格取得のためのプログラムを準備

宗教文化論 メディア文化論 異文化コミュニケーション 等

オランダ特別コース

- 「実験国家」オランダを人文社会学の様々な角度から学ぶ、日本で唯一のコース
- オランダを出発点にヨーロッパ社会について学ぶことにより、欧州の文化に精通し国際的に活躍できる人材を育成
- ライデン大学から教授陣を招聘
- ライデン大学(オランダ)への一年間の留学

オランダ現代社会論 オランダ文化論 日蘭交流史 等

長崎大学だけの特別コース

カリキュラム

カリキュラムの大きな特色の一つは一年次前期のトランジション・プログラムです。新入生は最初の半年間に七つの英語科目と、大学の学びへの導入科目三つのみを集約的に受講します。この期間の徹底した英語学習を通して、専門科目を「英語で学ぶ」ための準備をしつつ、セミナー科目などを受講して「高校における勉強」から「大学における探究」への移行を実現します。なお、入学時の英語力が基準を上回っている学生については、国内外でのインターンシップなど、特別プログラムを用意します。

語学モジュールの他にも一つ、学びのツールとして提供されるのがフィールドワークモジュールです。このモジュールには、インタビュー、統計調査、文書資料の探索などの実践科目を用意しています。

また、長崎大学がもつ海外のネットワーク、とりわけケニアでの活動実績をふまえて、アジアやアフリカにおける海外フィールドワークも一つの科目として取り入れています。

オランダ特別コース

多文化社会学部では、ここまでに紹介した三つのコースのほか、「オランダ特別コース」を設定します。

長崎は出島を出入り口としてオランダ、ひいてはヨーロッパと深い関わりをもってきました。それは江戸時代の話にとどまるものではありません。じつは現在でも、長崎大学はオランダとの間で活発な交流を続けています。事実、オランダのライデン大学からは毎年十数名の留学生が長崎大学で学ぶためにやってきます。

オランダは決して大きな国ではありません。しかし、昔も今も国際社会において確かな存在感を示していますし、他文化への寛容、社会福祉の実践など、日本の将来のために参考となるさまざまな社会的実践をしています。

オランダ特別コースでは、ライデン大学への一年間の留学を

学んでほしい

多文化社会学部の学生のキャンパスライフはとても忙しいものになると思います。語学の上達も大切ですが、予習や復習、ボランティア、インターンシップなど、あらゆる活動に積極的に取り組む必要があります。

意欲的で、アクティブなキャンパスライフを送り、それによって世界のどこに行っても通用する人材となるための環境を提供するのが多文化社会学部なのです。

アクティブに

いま、日本でオランダ語やオランダ社会のことを本格的に学べる大学はありません。オランダ特別コースが「日本で唯一のコース」となります。そして、それは他ならぬ長崎でしか実現できないことなのです。

オランダ特別コース

必須とされています。留学中はオランダ社会についての科目を英語で受講するだけでなく、担当教員の指導を受けてフィールド調査をしたりレポートを書いたりと、充実した留学生活を送ることができるよう。そこでこの経験は必ず将来いろいろな形で役立ちます。

いま、日本でオランダ語やオランダ社会のことを本格的に学べる大学はありません。オランダ特別コースが「日本で唯一のコース」となります。そして、それは他ならぬ長崎でしか実現できないことなのです。

学んでほしい

多文化社会学部の学生のキャンパスライフはとても忙しいものになると思います。語学の上達も大切ですが、予習や復習、ボランティア、インターンシップなど、あらゆる活動に積極的に取り組む必要があります。

意欲的で、アクティブなキャンパスライフを送り、それによって世界のどこに行っても通用する人材となるための環境を提供するのが多文化社会学部なのです。